

令和6年度秋田県小・中・高等学校学校体育担当者連絡協議会

【解説②】

「本県の体育・保健体育の重点について」



秋田県教育庁保健体育課
学校体育・部活動チーム

【 内 容 】

1. **子どもの意識と授業づくりの方向性**
2. **体育・保健体育科が目指す子どもの姿**
3. **体育・保健体育科の重点及び取組事項**



【 内 容 】

1. **子どもの意識と授業づくりの方向性**

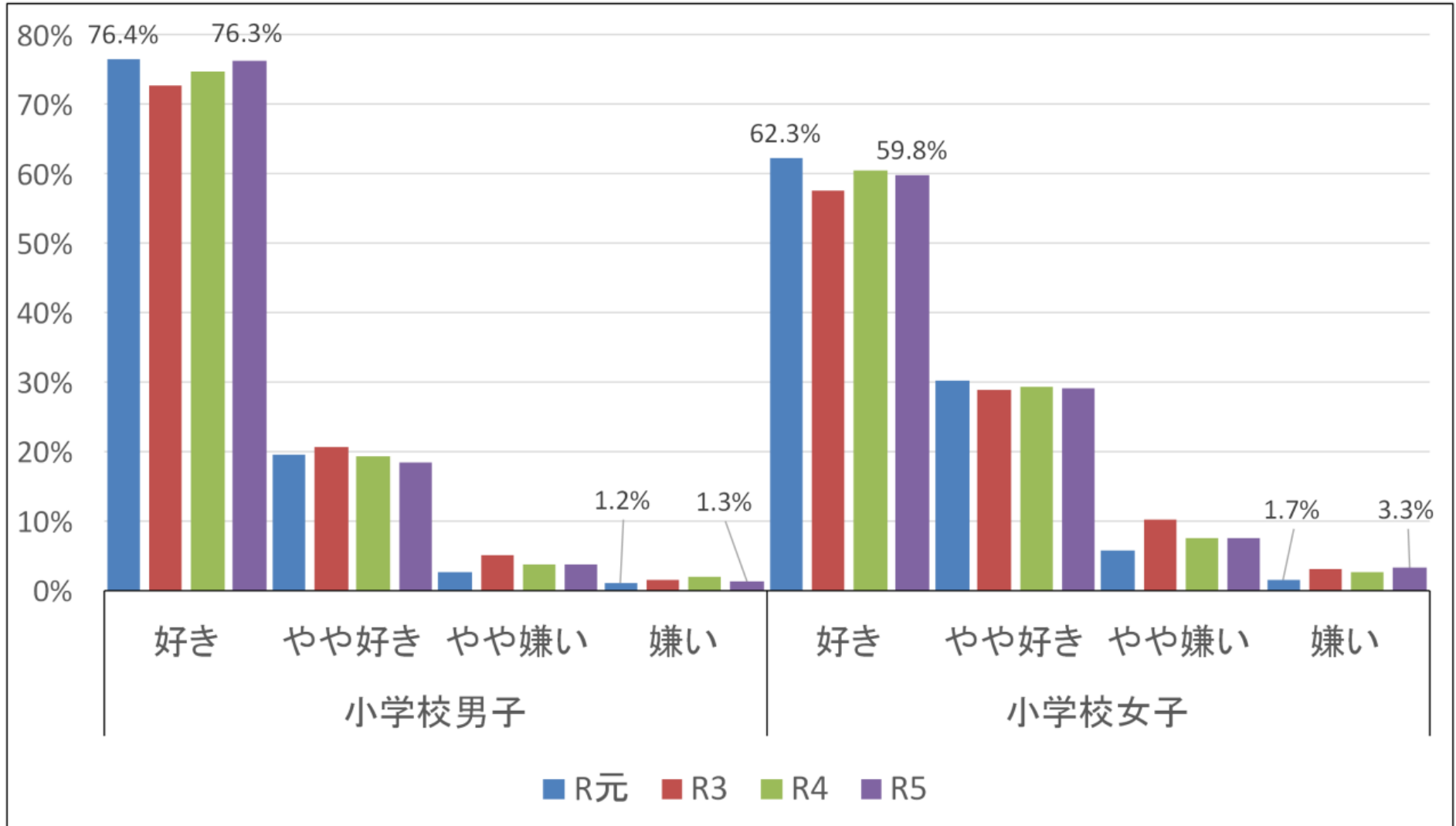
2. 体育・保健体育科が目指す子どもの姿

3. 体育・保健体育科の重点及び取組事項



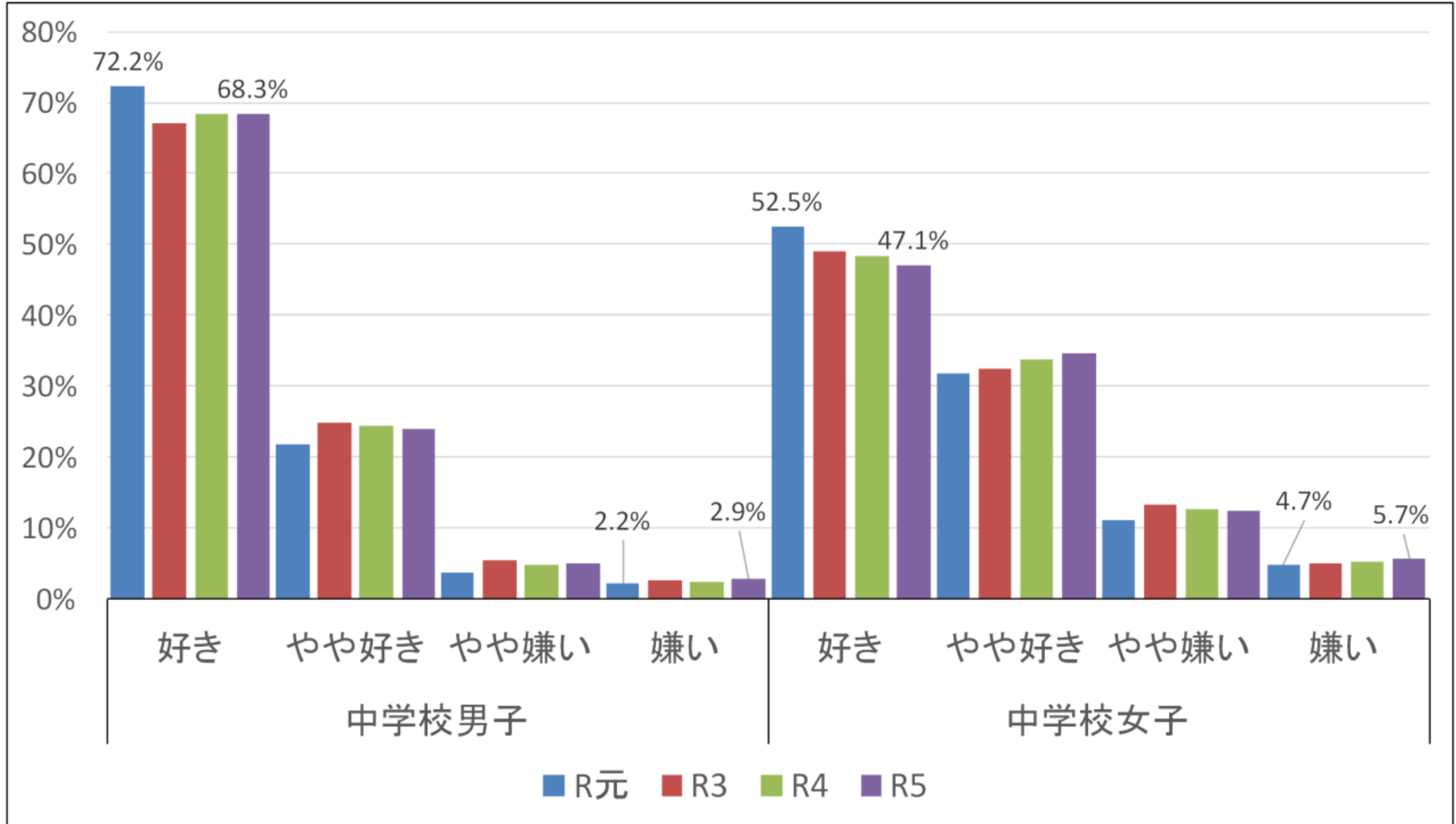
運動やスポーツに対する意識

県内児童の「運動やスポーツをすることが好き」の割合



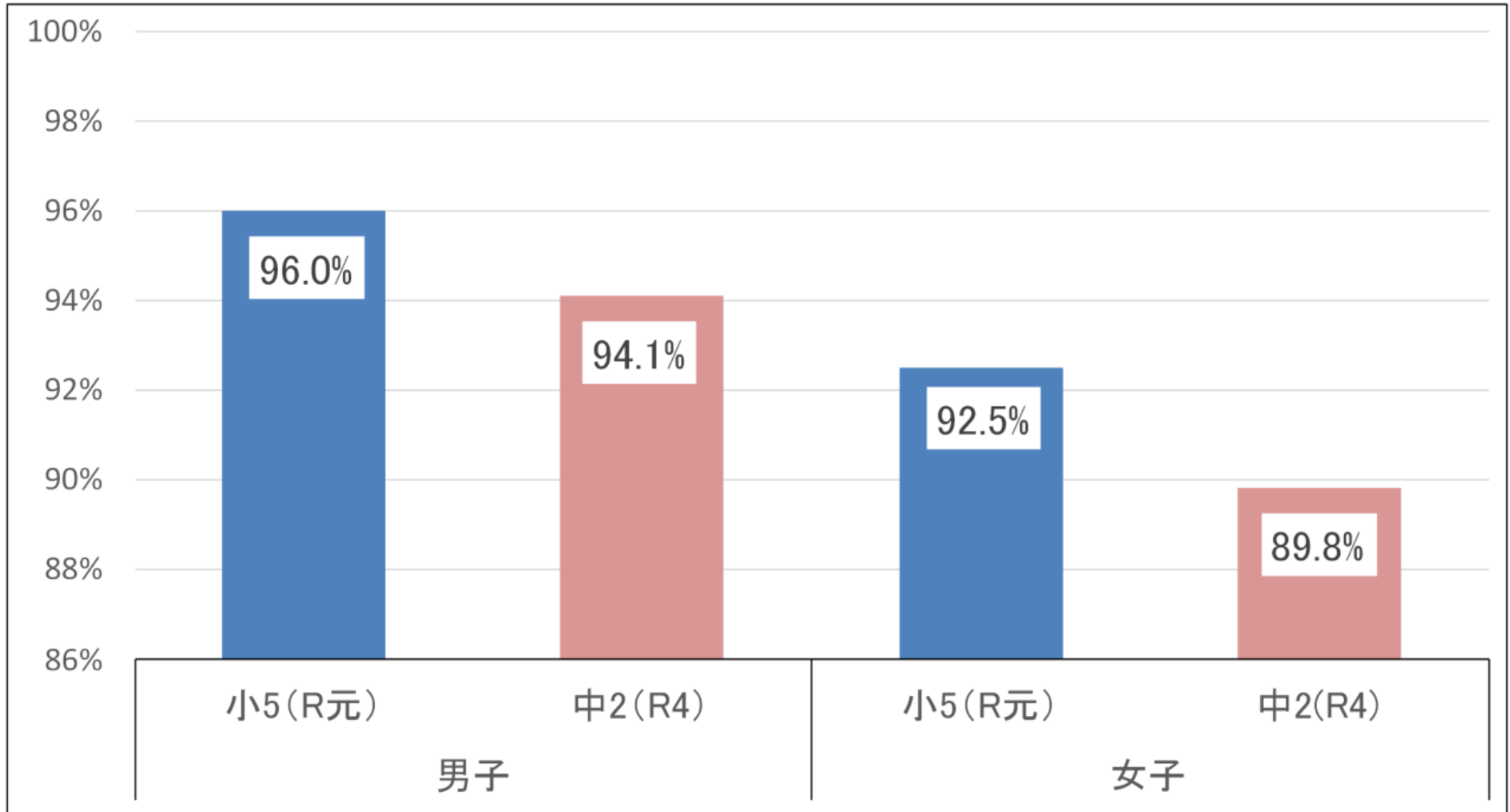
運動やスポーツに対する意識

県内生徒の「運動やスポーツをすることが好き」の割合



運動やスポーツに対する意識

「運動やスポーツをすることが好き」の変化（R元→R4）



運動やスポーツが好きから豊かなスポーツライフへ

運動や
スポーツ
が好き

運動やスポーツ
への積極的
(自主的、主体的)
な態度

生涯にわたる
豊かなスポーツライフ
の実現 (継続)

運動やスポーツの楽しさや喜びを味わうことができる授業づくりが大切である。



する



みる



支える

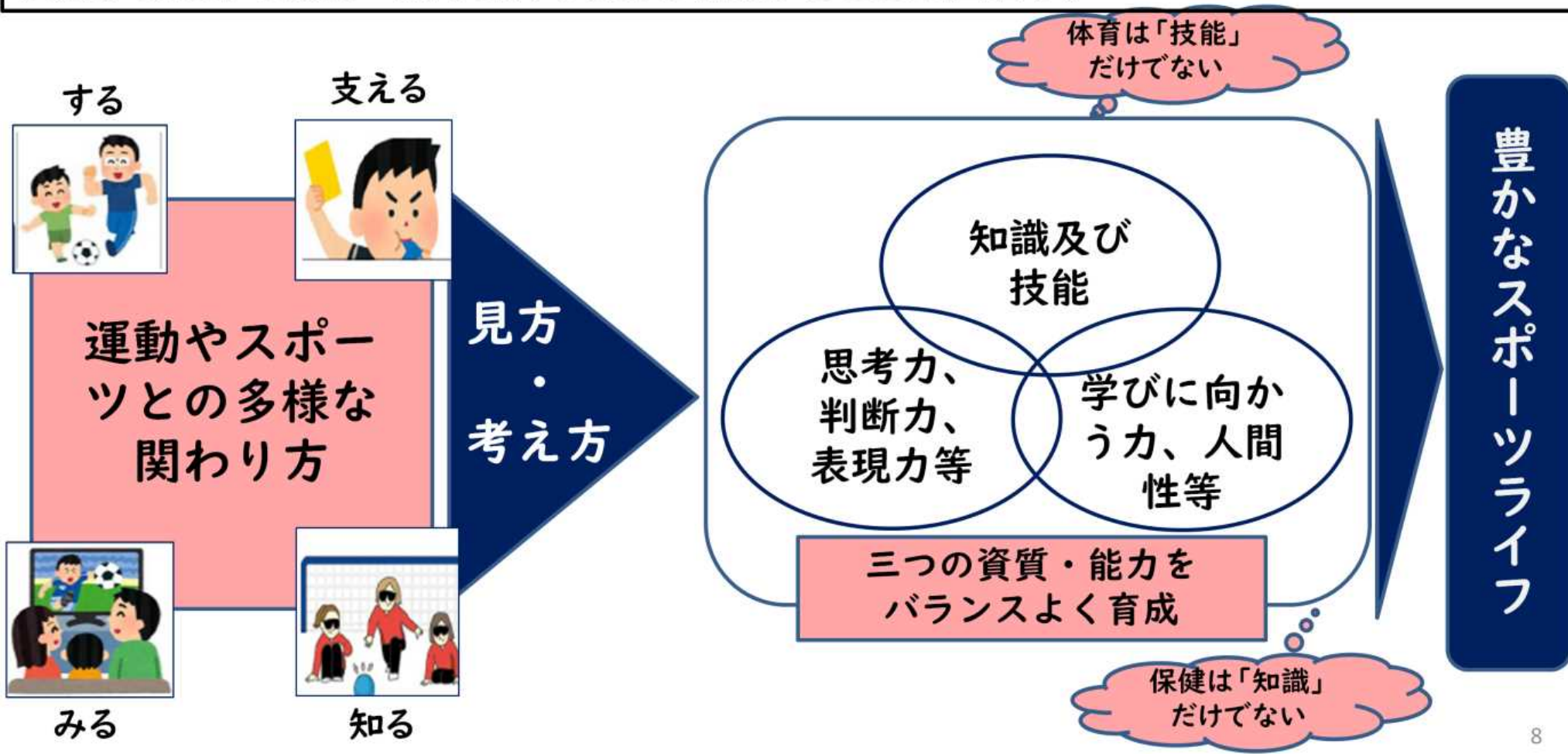


知る

豊かなスポーツライフの実現に向けた体育の授業づくり

小学校 体育科の目標（柱書き）

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見付け、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。



【 内 容 】

1. 子どもの意識と授業づくりの方向性
- 2. 体育・保健体育科が目指す子どもの姿**
3. 体育・保健体育科の重点及び取組事項



R6年度 目指す児童生徒の姿〈運動に関する領域〉

- 「する・見る・支える・知る」の多様な関わり方を通して、運動やスポーツの楽しさや喜びを味わい、大切さに気付くことができる。



する



みる・支える



知る

R6年度 目指す児童生徒の姿 <保健に関する領域>

□ 情報を適切に選択・収集・活用し、健康や安全に関する課題を発見・解決することができる。



選択



収集



活用

【 内 容 】

1. 子どもの意識と授業づくりの方向性
2. 体育・保健体育科が目指す子どもの姿
- 3. 体育・保健体育科の重点及び取組事項**



令和6年度 学校教育の指針：体育・保健体育の重点

重点1 **全ての児童生徒が運動の楽しさや喜び**
を味わうための指導の充実

重点2 **「体づくり運動」**の充実

重点3 **健康課題を解決する**保健の指導
の充実



P.54-55参照

重点1～3は、昨年度から大きな変更はありません。

学校教育の指針「令和6年度の重点」：各教科等の重点

体育・保健体育

▶指針 p54、55

①見方・考え方を捉え、楽しさや喜びから運動の大切さに気付く指導の充実

(運動に関する領域)

- ◇三つの資質・能力をバランスよく育成することができるよう、単元や本時のデザインを工夫する。
- ◇ねらいを達成した児童生徒の姿を具体的に想定し、児童生徒の実態や運動の特性を踏まえた個に応じた指導方法を工夫する。

②健康・安全に関する実生活の課題解決に向けた指導の充実

(保健に関する領域)

- ◇健康の大切さを実感することができるよう、「課題発見」「比較」「関連付け」などの活動を効果的に取り入れる。
- ◇情報収集や意見交換等の学習活動に応じて、ICTの効果的な活用を図るなど、指導方法を工夫する。

令和5年度 成果と課題

- 「指導と評価の計画」が作成され、児童生徒の学習や教師の指導に活かされてきている。
- 児童生徒が見方・考え方を働かせ、学びを広げたり、深めたりするための教師の適切な関わりが必要である。

令和6年度 目指す児童生徒の姿

- 「する・みる・支える・知る」の多様な関わり方を通して、運動やスポーツの楽しさや喜びを味わい、大切さに気付くことができる。
- 情報を適切に選択・収集・活用し、健康や安全に関する課題を発見・解決することができる。

学校教育の指針

令和6年度の重点



重点点の教育実践

地域に根ざしたキャリア教育の充実
“「問い」を発する子ども”の育成



秋田県教育委員会

P. 8 参照

重点①

運動に関する領域について



重点① 見方・考え方を捉え、楽しさや喜びから運動の大切さに気付く指導の充実

体育、保健体育科における「体育の見方・考え方」

する



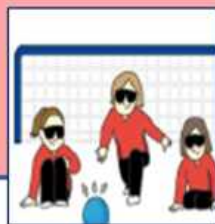
支える



運動やスポーツとの
多様な関わり方

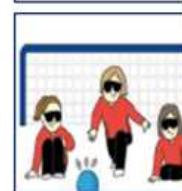


みる



知る

体育の見方
・考え方



体育の見方
・考え方

見方・考え方を働かせている姿に対する
称賛や価値付け

楽しさや喜びから運動の大切さへつなげる工夫



ハードルを
リズムカルに跳んで
楽しむ
みんなで楽しもう!!

ハードル走の歴史



ハードル走で身につけた力

〈ハードル走で身につけた力〉

- ① 自分に合ったインターバルや歩数を見付け、ハードルをリズムカルに走り越えることができる。
- ② 自分に合った課題を見付け、解決するために適切な練習の方法を選んだり、工夫して練習に取り組みだりすることができる。
- ③ 安全に気をつらなげう、仲間と協力して運動に取り組み、学ぶことや取り組みたいことを決め合うことができる。

学習計画

時	①	②	③	4	5	6
	休む	休む	休む	休む	休む	休む
学習内容	ハードル走の歴史を学ぶ	ハードル走の歴史を学ぶ	ハードル走の歴史を学ぶ	ハードル走の歴史を学ぶ	ハードル走の歴史を学ぶ	ハードル走の歴史を学ぶ

楽しさや喜びから運動の大切さへつなげる工夫

運動の特性に
触れる楽しさを
味わう

三つの資質・能
力をバランスよく
育てる

「する」だけではない
学習過程の工夫
「知る-取り組む-つ
くる」

ハードルを
リズムカールに跳んで
楽しむ
みんなで飛ぼう！

ハードル走の歴史



ハードル走の成り
立ちから特性や
価値を知る

ハードル走で身につけた力

〈ハードル走で身につけた力〉

①自分に合ったインターバルや
歩数を見付け、ハードルを
リズムカールに走り越えることが
できる。

②自分に合った課題を見付け
解決するために適切な練習の
方法を選んだり、工夫して練習に
取り組んだりすることができる。

安全に気をつけたら、仲間と
協力して運動に取り組む。

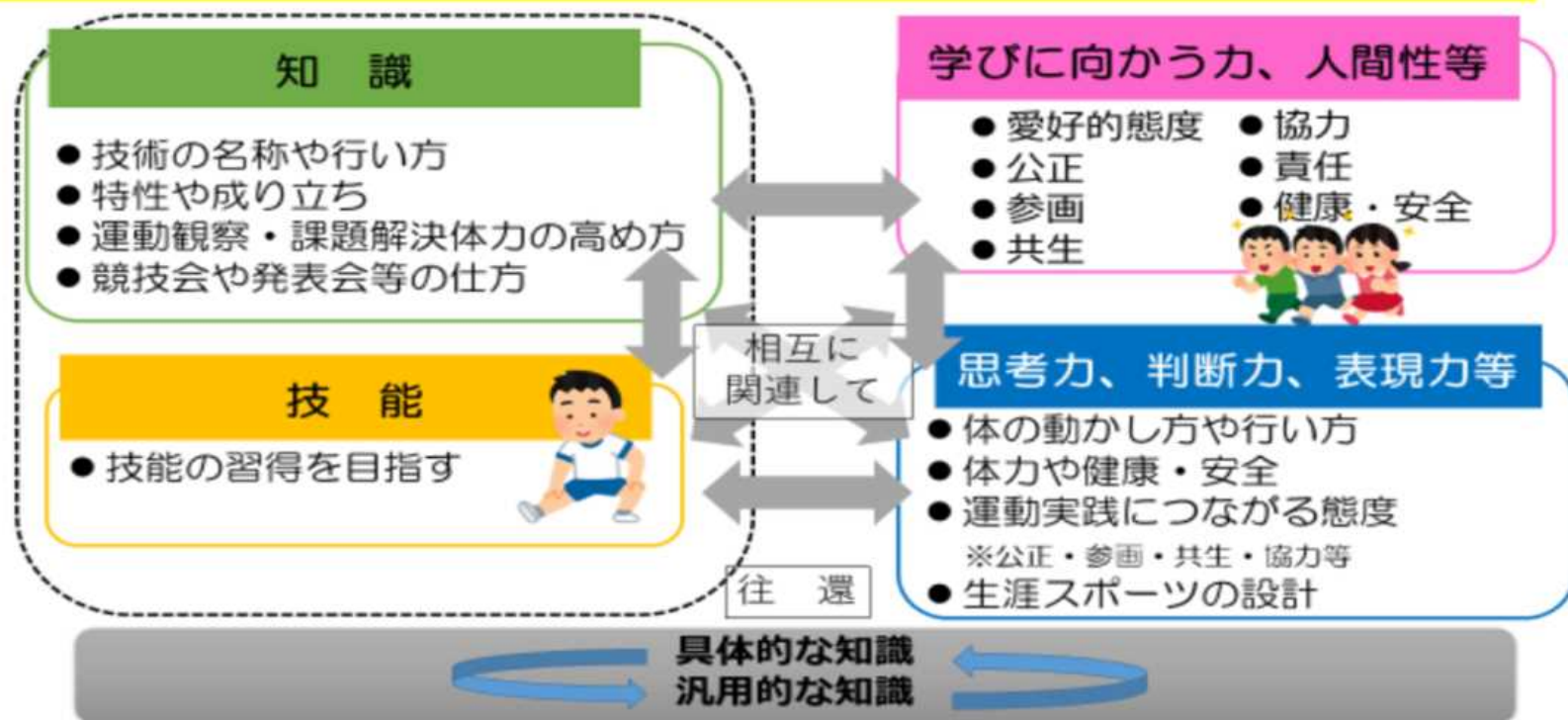
学ぶことや取り組むことを決め合う
ことができる。

時	①	②	③	4	5	6
	体験する	体験する	取り組む			つくる
学習内容	ハードル走の歴史 ハードル走の目的 ハードル走のルール ハードル走の準備 ハードル走の安全 ハードル走の服装 ハードル走の道具 ハードル走の練習方法 ハードル走の練習場所 ハードル走の練習時間 ハードル走の練習回数 ハードル走の練習強度 ハードル走の練習内容 ハードル走の練習目標 ハードル走の練習評価	ハードル走の歴史 ハードル走の目的 ハードル走のルール ハードル走の準備 ハードル走の安全 ハードル走の服装 ハードル走の道具 ハードル走の練習方法 ハードル走の練習場所 ハードル走の練習時間 ハードル走の練習回数 ハードル走の練習強度 ハードル走の練習内容 ハードル走の練習目標 ハードル走の練習評価	自分の課題について 誰かに相談して			自分たちでハードル走の歴史をまとめる

【重点①】 取組事項 1

◇三つの資質・能力をバランスよく育成することができるよう、単元や本時のデザインを工夫する。

三つの資質・能力の指導内容の関連を図った指導の充実



重要性に気づきながらも・・・

計画的に実践

【重点①】 取組事項 2

◇ねらいを達成した児童生徒の姿を具体的に想定し、児童生徒の実態や運動の特性を踏まえた個に応じた指導方法を工夫する。

指導と評価の一体化の実現

教師が自らの指導のねらいに応じて授業の中での子どもの学びを振り返り学習や指導の改善に生かしていくサイクルが大切

Point

1) 指導と評価の計画の作成

「単元の目標」「評価機会」「単元の評価規準」などが示されている計画の作成が重要

2) 評価に活用できる学習カードの工夫

子どもが記述した内容を評価の材料として活用できる学習カードの項立ての工夫が重要

3) 評価の実現状況を判断する目安の作成

子どもの学びの様相や判断の目安、キーワードなどを想定し授業を行うことが重要

重点②

保健に関する領域について



重点② 健康・安全に関する実生活の課題解決に向けた指導の充実

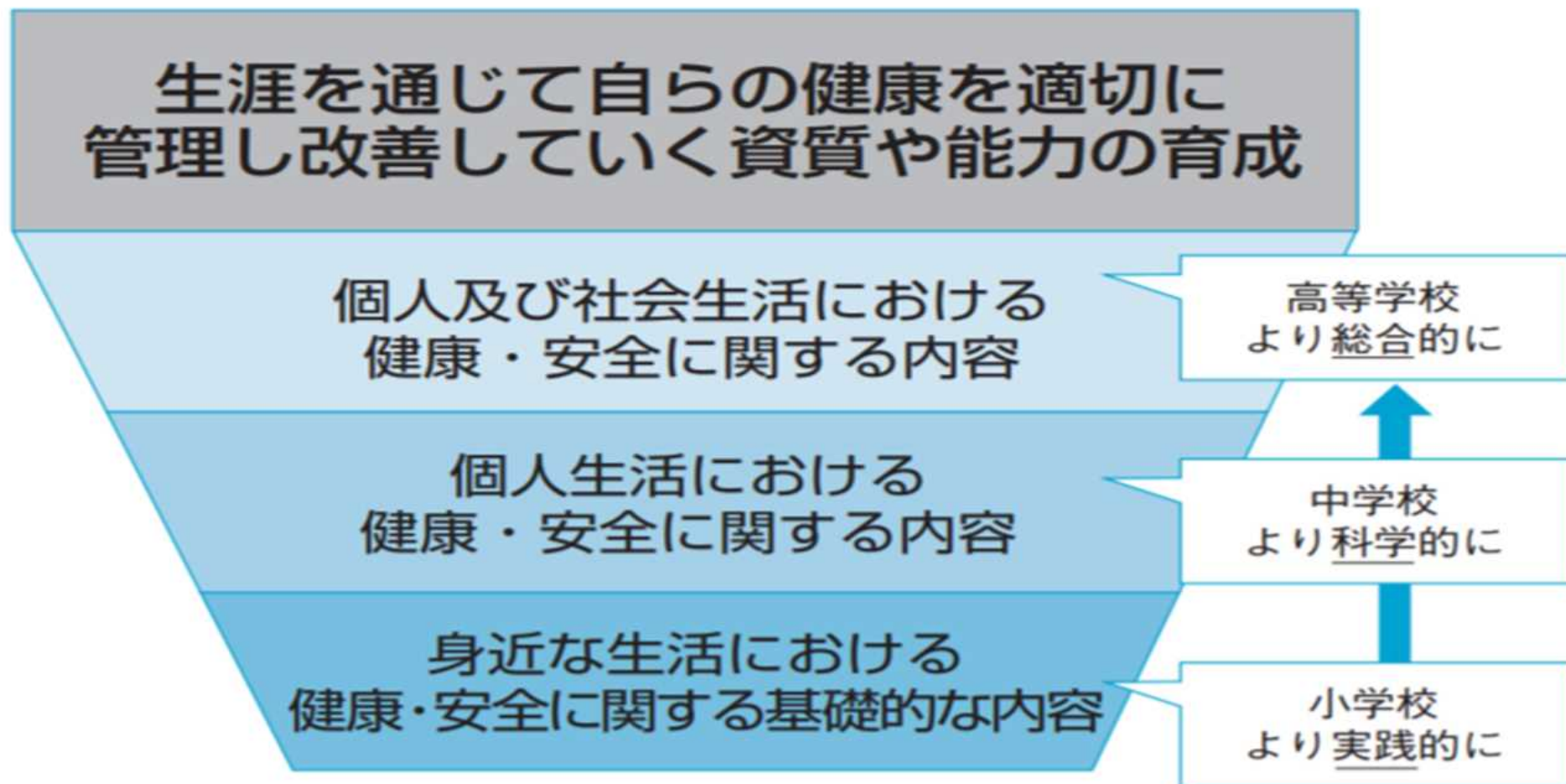
保健の授業づくりの視点（小学校・中学校・高等学校 保健）

「保健」は、これらの健康・安全に関する基礎的・基本的な内容を生徒が体系的に学習することにより、健康課題を認識し、これを科学的に思考・判断し、適切に対処できるようにすることをねらいとしており、生涯を通じて健康で安全な生活を送るための基礎を培うものである。

したがって、「保健」の指導に当たっては、健康課題を解決する学習活動を重視して、思考力、判断力、表現力等を育成していくとともに、「保健」で身に付けた知識及び技能を生かすことができるように健康に関する関心や意欲を高めることが重要である。

重点② 健康・安全に関する実生活の課題解決に向けた指導の充実

体育・保健体育科における保健の学習の体系



【重点②】 取組事項

- ◇ **健康の大切さを実感する**ことができるよう、「課題発見」「比較」「関連付け」などの活動を適切に取り入れる。
- ◇ 情報収集や意見交換等の学習活動に応じて、**ICTの効果的な活用**を図るなど、指導方法を工夫する。

子どもたちの「なるほど！」を導く（腑に落ちる）指導の工夫

学習したことが・・・
なるほど！
わかった！



この課題は・・・
僕にも関わりがある！
自分たちのことなんだ！

この行動は・・・
できそう！
効果がありそう！

子どもたちの腑に落ちる理解



- ◇言葉で強調
- ◇なるほどと思える説明
- ◇見える化
- ◇体験（五感を通して感じ取る）
- ◇身近な事例から（保健室は事例の宝庫）
- ◇ディスカッションから
- ◇自分たちのデータから



①考えたことを入力
(個人)



②考えたこと出し合
い、話し合う(班)



③全体で共有
(全体)



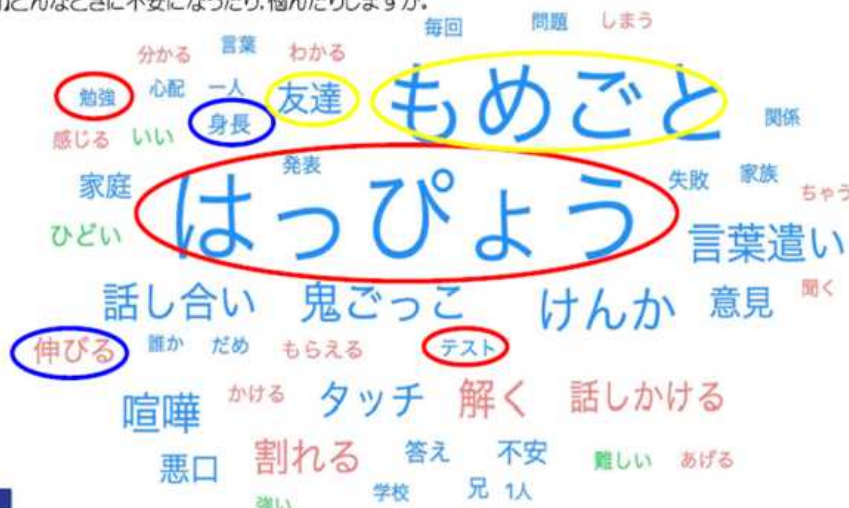
④再度考える
(個人)

子どもたちの腑に落ちる理解



- ◇言葉で強調
- ◇なるほどと思える説明
- ◇見える化
- ◇体験（五感を通して感じ取る）
- ◇身近な事例から（保健室は事例の宝庫）
- ◇ディスカッションから
- ◇自分たちのデータから

【質問】どんなときに不安になったり、悩んだりしますか。



誰かに聞く。	相談	誰かに相談する	相談	人に話すこと。
相談する。	自分の好きなことをして、忘れる。	友達に相談する。	周りの人に相談する（お母さんや友達）	先生やお母さん、友達に相談する。
お母さんなどの信頼できる人に悩みを話す。	そうだしたりする	ともだちやかくに相談する。	誰かに相談	家族に相談する。
相談する。一人で考える。	友達と一緒に遊ぶときに、もめごとになったりする	相談		心を通わせて。

ICT機器を活用した実感を伴う活動の工夫

ICTの効果的活用

中学校第2学年応急手当の意義と実際

知識及び技能の習得

心肺蘇生法の学習



これまでは、一斉指導や動画視聴などにより、理解を深めることを図った。

手順を動画で再確認

撮影した自分の取組動画を視聴

修正点を意識して、再度実施

自分の取組動画を確認しながら、試行錯誤することにより一層、理解が深まり、技能の向上を図ることが期待できる。



課題の
発見・把握

目標の達成
状況の確認

キーワード

「ICTを活用することにより
子どもが〇〇〇することができるようになり、
〇〇〇の資質・能力を育むことができる」



子どもたちに

“どのような力を身に付けさせたいのか”

そのために “ICTを使って何をしたいのか”

を明確にした授業づくりが求められている。

【まとめ】

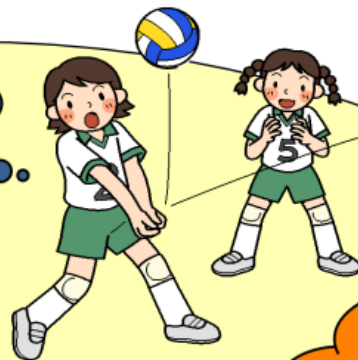
「楽しく○○○○体育授業」

運動やスポーツの
楽しさや喜びを味わうこと

「豊かなスポーツライフの実現・継続」

子どもたちの発達に応じた楽しさや喜びを追究した
体育の授業づくりが重要

「できそうだ」
「やってみたい」



わくわく感のある
心に届く課題

「なぜ？」
「どうして？」



子どもの心を動かす指導



心のスイッチを押す
教材や場

思考を促す
問いや発問

「こうすれば
もっと楽しく
なる」



御清聴ありがとうございました。

